



国家・領土・ナショナリズム

- ・ 領域性の理解を基礎に国家・領土・ナショナリズムの相互関係
- ・ グローバル化の影響によって国民国家がどのような影響を受けているか
- ・ なぜグローバル化の時代にナショナリズムは台頭するのか
- ・ その前に用語確認

グローバル化と国民国家

- ・ **グローバル化**
 - ・ 資本・労働力・技術・商品・情報が国境を越えて流動
 - ・ 特に冷戦終焉以降
- ・ **国民国家 (nation-state)**
 - ・ 政体 (主権)、構成員、領土からなる政治的共同体としての国家 (state)
 - ・ 社会・文化的背景を共有する文化的共同体としてのネイション≒民族・国民 (nation)

国家とネイションとの「図式的」関係

- ・ 国家≒ネイション
 - ・ 日本、アイスランド
- ・ 国家>ネイション
 - ・ 中国 (漢民族+少数民族)
 - ・ アメリカ合衆国 (多民族国家)
- ・ 国家<ネイション
 - ・ アラブ諸国
- ・ 国家=ネイションは**理念型、政治的理想**

アフリカ南部



7

クルド族の分布 (国家なき民族)



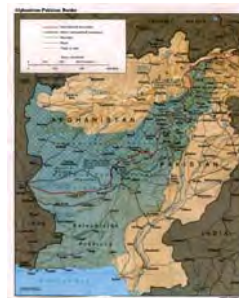
8

アフガニスタンの民族分布



9

パシュトゥン族の分布

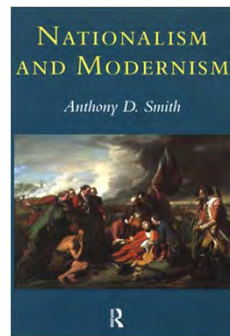


10

ナショナリズム

- ・ ネイションの主権・自治・自決といった集権的権利を主張するイデオロギーや運動
- ・ 目標 = 国家の形成・維持
- ・ ネイションは国家を形成 (しようと) する社会的統合性をもつ集団
 - ・ 特定のエスニック集団によって代表される場合
 - ・ その社会的・政治的文脈によって「国民」、「民族」、あるいはこの両者

11



12

民族自決（主義）

- ・ 政治的理念
 - ・ ネーションと国家（それに準ずる政体）を結ぶ
 - ・ 国民国家の形成と維持を正当化する
- ・ この理念の実現を可能とする不可欠の契機 = **領域、領土**
 - ・ 土地の領有（客観的条件）
 - ・ 特定の土地に対する心理的愛着、帰属意識、アイデンティティ（主観的条件）
 - ・ ナショナリズム研究では看過されがち

13

脱領域化と国家の退場（1）

- ・ スーザン・ストレンジ（1998）
- ・ グローバル化
 - ・ 多国籍企業の貿易・投資活動や国際労働力流動の活発化、それらを支える交通・通信手段の発達やコンピューター・ネットワークの拡大
 - ・ 結果として世界は時空間的に圧縮
 - **領土上に固定された現代国家の諸機能に再編を迫る**



14

脱領域化と国家の退場（2）

- ・ 国家の機能的再編
- ・ **新自由主義**の採用
 - ・ 規制緩和による経済自由化を進め、公共サービスを含む社会のさまざまな分野に市場原理を活用する
 - ・ 多国籍企業や外国の情報などが国境を横断、移民が国内に流入・定着→国家がこれらの流動を国境や領土内で制御することは相対的に困難
 - ・ グローバル化による諸現象の流動を領土的制約からさらに解放

15

脱領域化と国家の退場（3）

- ・ 資本や労働力の流入
 - ・ 国民国家の前提である安定した国民性や文化的均質性を変化
- ・ インターネットの普及
 - ・ 外国文化の浸透をうながす
 - ・ 国内のサブカルチャーが発展する主要なチャンネルともなる
 - ・ 国家による文化的コントロールを一層困難に
- ・ 国際的な経済交流の深化
 - ・ 戦争の可能性を減少させる
 - ・ 平和な状態は皮肉にも国民の統合を弱める
- ・ 規制緩和と地方分権の推進
 - ・ 自治体外交や海外企業誘致のようにローカルな地域がグローバルな現象と直接関わるようになる（グローカル化）

16

脱領域化と国家の退場（4）

- ・ 新たな政治経済的主体の登場
 - ・ 通信・保険・金融系多国籍企業、マフィア（国際犯罪組織）、世界銀行や国際通貨基金など国際機関（ストレンジ 1998）
 - ・ 超国家機関（EU）
 - ・ 移民や難民などトランスナショナルな人的ネットワークの構築
- ・ リスク社会における新しいガバナンスの要請
 - ・ グローバル化したテロ、金融危機、異常気象、組織化された犯罪という脅威→諸国家は、自国の利益のために、脱国家化・超国家化せねばならない（ベック 2010）

17

今日の国家のナショナリズム

- ・ 活発化
 - ・ 分離独立 = スコットランド、バスク、インドネシア
 - ・ 移民排斥（極右勢力） = ドイツ、イギリス、オーストリア、フランス
- ・ 「国家の退場」といわれるが
 - ・ 国家間システムが一齐に機能喪失するか？
 - ・ 世界の政治経済に対する統治・調整は必要
 - ・ 多国籍企業や市場が民主性や説明責任を持つか？
- ・ 理論的な整理と統合が必要

18

ナショナリズムの理論 (1)

- 近代主義アプローチ
 - 道具主義 ↔ 原初主義アプローチ
 - 民族自決など政治目標達成のための道具
 - 資本主義世界経済の発展過程における国家権力獲得競争 (例: 反・脱植民地化闘争)
 - 客観的な政治経済的利益、ナショナルな情緒も動員のための資源
 - 歴史を恣意的に利用・構築 = 「伝統のねつ造」
 - 識字、メディア、教育を通じた「想像の共同体」
 - エリートが先導、大衆を動員

19

ナショナリズムの理論 (2)

- 非近代主義アプローチ
 - ネイションを統合する紐帯 = 同血統の祖先、同一言語、同一慣習 (文化重視)
 - 起源は近代以前 = 過去から継続的に存在 (イスニー)
 - 出自が同じイスニック集団への情緒・心理
 - 国家より下位レベルのナショナリズムを説明
 - ナショナリズム発現の構造的要因の説明は弱い

20

ナショナリズムの理論 (3)

- グローバル化の視点
 - グローバル化による国家下位のイスニック・アイデンティティ喚起 (スコットランド独立運動)
 - グローバル文化、ポストナショナルな社会は訪れるか?
 - ネットワーク社会、移民の存在 → 国家内・国家間にイスニック集団の複雑なヒエラルキー
 - 発展途上世界の不安定化と難民発生 → ホスト国の社会的動揺、反移民・難民感情の悪化
 - 単層的より重層的視点 (EUのイスラム系移民問題)

21

領域的視点からのナショナリズム

- 1980年代から空間的・地理的視角
 - 中心-周辺関係
 - 領域的アイデンティティ
 - 地理的スケール

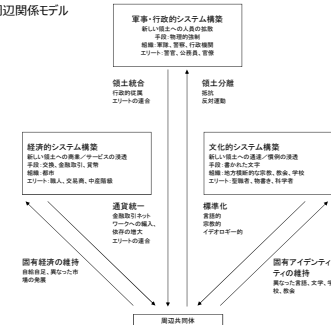
22

中心-周辺関係

- 世界経済レベルでの政治経済的不平等発展 → イスニック集団の政治的動員 (反植民地闘争)
- 国家間・国内で特定のイスニック集団間の支配・従属関係
- ロッキンの定式化 (1983年)
 - 中心地域と周辺地域間の統合・分離 (ナショナリズムの作用)
- 注意すべき単一化の前提
 - イスニック集団の構成員が一樣な反応
 - イスニック集団が均質な領域に居住

23

ロッキンによる中心-周辺関係モデル
図7-3 p. 97



24



領域とアイデンティティ (1)

- ・ 国民国家建設には**領土保持**は不可欠
 - ・ 国内での自治権要求でも領域想定
- ・ 1980年代から**領域**の意義が評価
- ・ 領域→ネーションの**文化的側面**
 - ・ ネーション固有の「**ホームランド**」→ナショナリストのイデオロギー形成
 - ・ ナショナル・アイデンティティにかかわる**神話**→**領土と祖先**を政治的共同体の基礎
 - ・ 例をあげられる？



領域とアイデンティティ (2)

- ・ 人間の**領域性** (サック 1986)
- ・ 権力の「具象化」
 - ・ 特定の社会的利害 (主権の獲得) を実現するために特定の社会関係のコントロール (ネーションの統合) が必要となる場合、その利害がコントロールの行使される特定の場所 (領土) に結び付けられる例
 - ・ **領土 (の獲得) = 主権 (の獲得・表現) として政治的に利用される**



領域とアイデンティティ (2)

- ・ 社会運動としてのナショナリズム
 - ・ **資源動員論**
 - ・ 運動への参加動機 = 個人主義的・合理的
 - ・ 近代主義アプローチと類似
 - ・ 政治的動員の社会心理的側面、**集合的アイデンティティ**
 - ・ エスニック運動、ナショナリズム運動には重要、運動の成否は連帯を強化する強力なアイデンティティの構築
 - ・ **領域的アイデンティティ (郷土や国土への愛着・帰属意識) の重要性**

領域とアイデンティティ (3)

- ・ **領域的アイデンティティ**
- ・ 階層的に構成された領域的組織に対応して集合的なアイデンティティも領域的要素を持つ (例は?)
- ・ 近代化→境界画定された領域が集団を定義 (○○族の土地→○○地区に住民登録する人)
- ・ 領域内の**景観**が居住集団のアイデンティティと強力な象徴的関係を持つ
- ・ ただし、相対的、可变的、かつ不均質

31



32

フィンランドの象徴



33

ナショナリズムと地理的スケール

- ・ 民族紛争の要因
- ・ **国家と民族の領土的不一致**
 - ・ 民族間の政治的主導権、宗教など文化的主導権をめぐる対立。旧植民地に顕著。
- ・ **既存国家の枠組みの動揺**
 - ・ 世界各地での少数民族運動 (エスノナショナリズム) の活発化。背景にグローバル化のインパクト。

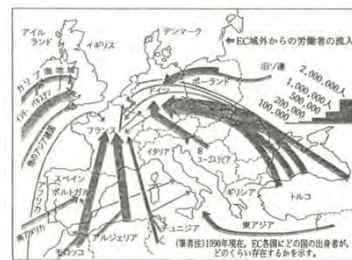
34

EUの場合

- ・ **超国家機関の誕生**
 - ・ 1993年マーストリヒト条約によるヨーロッパ連合 (EU) の成立。経済・通貨・政治的統合。
- ・ EUへの**国家権限の委譲**
- ・ **国内少数民族の自治権強化**
 - ・ 独自文化 (言語) の保持。
- ・ **EU外からの移民の増加**
 - ・ トルコ、北アフリカからのイスラム教徒。

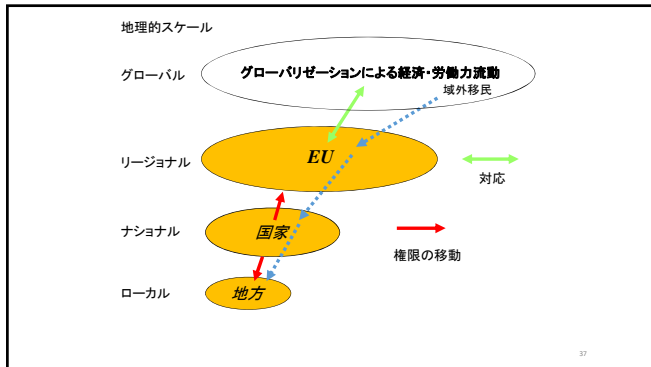
35

EC域外からの労働移動



出典: G. Simon, Vers Europe Communautaire de moins en moins problématique? Revue Européenne de Migration Internationale, vol. 7, no. 2, 1991, p. 54.

36

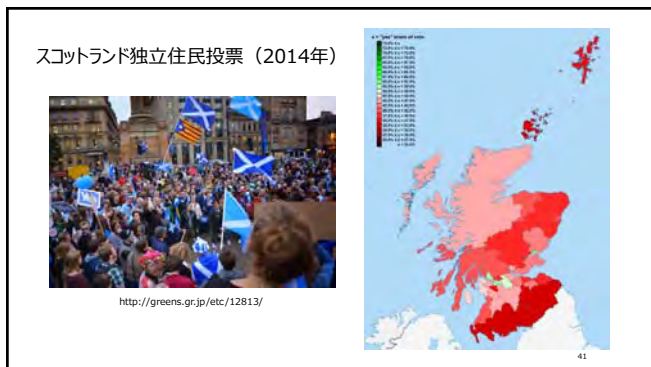


EUをめぐるアイデンティティ

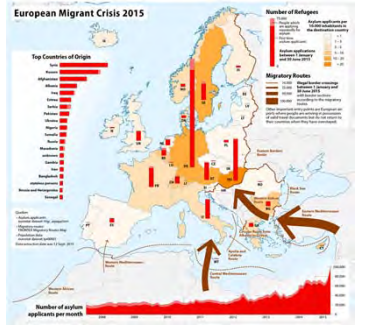
- ・ **リージョナル** = 「ヨーロッパ人」の創出
- ・ **ナショナル** = 動揺と反発
 - ・ 極右・移民排斥運動 (ネオナチ)
- ・ **ローカル** = 活性化
 - ・ 分離主義的運動 (バスク、スコットランド)
- ・ **移民** = 独自文化の保持
 - ・ イスラム復興運動 (ドイツのトルコ系移民)

現状：混沌。重層的アイデンティティの形成。

38



欧州難民危機 (2015年)



43

【論点】

- ・ 第7章コラム (106-107頁)
- ・ 大連ではなぜ反日デモが起こらなかったのか？
- ・ このことを知ること何の意味があるのか？
 - ・ 事態の発生を国家のスケールだけで考えてよいか？
 - ・ 重層的なスケールから考える「メトリ」は何か？

44